

# 多文化共生社会実現に向けた

## 岡山市の取組み

### 岡山市外国人市民会議を中心に

岡山市国際課 安田 充年

#### 本市の概要

岡山市は、古代吉備文化ゆかりの地として歴史と伝統を有しており、戦国時代末期に宇喜多直家・秀家父子が岡山城と城下町の建設に着手して以来、西日本における政治・経済・文化の中心都市の一つとして成長してきた。江戸時代には岡山藩の城下町として繁栄、一八八九年に市制を施行した。一九四五年の大空襲で市街地のほとんどを焼失したが、戦後は県都として、また経済・産業の中心地として復興し、一九七二年には山陽新幹線開通、一九八八年には瀬戸大橋開通、岡山空港開港、一九九三年には山陽自動車道全線開通と、広域高速交通網の整備が進み、二〇〇五年三月二二日の御津町・灘崎町との合併を経て、二〇〇七年一月二二日建部町・瀬戸町との合併により、面積七八九・八八km<sup>2</sup>、人口約

七〇万人となり、二〇〇九年の政令指定都市への移行実現を目指している。

#### 事業の背景・目的

政治・経済・文化をはじめとするさまざまな分野でグローバル化が進み、わが国は異なる文化、異なる生活習慣を持つ人々が共生する社会へ変貌を遂げている。

本市においても、一九九六年三月末現在六二六一人であった外国人登録人口が二〇〇六年三月末現在で八八八〇人と約一・四倍となり、構成比も一〇年前の一・〇三%から一・三二%に増加している。また、韓国・朝鮮人を中心とする、いわゆるオールドカマーが中心であった一〇年前に比べると、出身国別では、現在中国、韓国・朝鮮、フィリピン、ブラジルの順となっており、今後はニューカマーと言われる外国人市民の人口増加が見込まれ、国際化の

一層の進展が予想されている。

一方、二〇〇三年一月に本市に在住の外国人市民一六〇〇〇人を対象にした意識調査を実施したところ、岡山市に住み続けたいと答えた人が八割余りに上った一方で、日本人と外国人との間の誤解や偏見、あるいは日常生活にかかる諸問題など、取り組むべき課題が残っていることなどが指摘された。さらに、八割を超える回答者が、岡山市のまちづくりについて話し合い、意見を表明する場の必要性を認める結果となり、その後に開催された、多文化共生を目指したフォーラムの実施と合わせ、市民意識の高まりも見られるようになった。

#### こうした経過を経て、外国人市民の意見や要望を市政に反映させ、市民間の相互理解、多文化共生社会の実現ならびに市政の発展に寄与することを目的とした「岡山市外国人市民会議」を二〇〇五年二月一三日に設置した。



↑岡山市外国人市民会議の様子

#### 活動状況

岡山市外国人市民会議では、これまで①

「ことばと暮らし」について②住宅について③子ども安全・安心について——などをテーマに、六回の審議が行われた（二〇〇六年一〇月現在）



↑行政視察

ほか、市の窓口関係業務や市議会本会議の視察、川崎市外国人市民代表者会議の視察・懇談を経た後、提言の取りまとめについて協議が重ねられてきたところである。二〇〇七年一月には、提言書に基づいて外国人市民の意見を聴くことを目的とした「外国人市民会議・オープン会議」も開催された。

### 期待される成果等

本市が多文化共生社会実現に向けた取り組みを施策化していく上で、この提言の持つ意味は大きく、この会議を通して、これまででなかった外国人市民とのネットワークが形成されたことも大きな成果である。会議の委員は本市の多文化共生社会実現に向けた推進役として、また、それぞれのコミュニティにネットワークを持つキーマンとして、これらの人的資源を得たことは今後

の施策を展開する上で非常に重要な意味を持つ。

さらに、この二年間の会議に参加した職員の意識改革を進める上でも有効であった。外国人市民

も同じ岡山に居住する住民であり、さまざまな問題点、課題を共有していくためには対話が必要であるということを確認することにもなった。



↑川崎市外国人市民代表者会議委員との懇談

### 今後の展望

都市づくりの重点がハードからソフトへと移る中、市民の役割は、一層大きくなっていく。岡山市では、「安全・安心ネットワーク」の取組みなど自分たちの地域を自分たちの手で守る自主的な活動が活発になっている。こうした活動をさらに広げ、市民がまちづくり全般に主体的にかかわっていくために大切なことは、町内会などの地域団体とNPO、ボランティア等の団体が連携し、協働することである。また、女性、高齢者や外国人などさまざまな市民が参画できる仕組みをつくり、多様な人々の視点

を集め、総合化することも重要である。市民の手によるまちづくり活動を通じて地域の中に、住民自治力、資源活用力、文化創造力、生活維持力、環境保全力などを内容とする「地域力」が形成され、地域が都市内分権の担い手となることが期待されている。一方、地域の中で、新たな人々を受け入れ、ともに地域力を築き上げていくことも大切である。こうした中、新しい都市経営の仕組みをつくり、市民や地域、NPO、事業者等との役割分担を明確にし、多様な事業手法も検討しながら、良好なパートナーシップのもとに都市づくりを進めることが重要である。

こうした観点に立って、政令指定都市を目指す岡山市が、主体性を活かし、活力あるまちづくりを進めていくには、外国人市民の視点での取組みが不可欠となる。

外国人市民の意見、要望を公平に集約し、市政に正しく反映させることは、本市が多文化共生社会を実現していくその出発点となるものである。外国人にとっても住みやすいまちであることは、人口増加を促し、まちの活力を向上させるための重要なファクターとなる。岡山市外国人市民会議が、市政への単なる意見具申機関にとどまらず、市民協働のパートナーとして、さまざまな視点、角度から、市政の発展に積極的に関与していただくことを期待するものである。